

今回は新潮劇院で研修生を指導している張桂琴が初登場します。また、彼女が日々指導している日本人の京劇研修生たちも初出演となります。彼女たちと、いつもの男性陣キャストとの掛け合いで、さらに面白くなった舞台、ぜひ楽しみにしてください。 新潮劇院・主宰 張春祥



<第0期 新潮劇院・研修生>



■張桂琴 (ちょうけいきん zhāng guìqín)

中国戯曲学院大学演劇学科卒業、同大学院を修了。山西省京劇団で京劇俳優として活躍する一方、14年間にわたり母校演劇科の教員を務め、日本や韓国でも京劇の特別講師を務める。新潮劇院では研修生専任の講師。

■楊家将演義とは？

「三国志演義」「水滸伝」などと並び、中国では広く親しまれている古典文学で、宋の国に使えた楊一族の盛衰を綴った物語です。中国ではテレビドラマなども放送され、京劇でも「三岔口」や「四郎探母」など、多くの演目がつくられています。



<穆桂英と楊宗保>

■あらすじ

第一章 穆柯寨 (ぼくかさい・穆一族の砦)

遼の国と戦争中の宋国では、遼の作った「天門陣」に太刀打ちできませんでした。この陣を打ち破るためには穆柯寨 (ぼくかさい) に生えている「降竜木 (こうりゅうぼく)」という神木が必要であることを知った楊家の頭首・楊延昭 (ようえんしょう) は、部下の焦贛 (しょうざん) を穆柯寨に派遣して「降竜木」を盗ませようとするのですが、領主の娘、穆桂英に見つかってしまいます。穆桂英にかなわない焦贛は、たまたま近くで見回りの任にしていた楊延昭の息子・楊宗保 (ようそうぼ) に助けを求めるのですが…

第二章 穆天王 (ぼくてんおう・穆家の頭首)

なりゆきで穆桂英と結婚することになった楊宗保。楊延昭はそうとも知らず、息子を助けるために身分を隠し、少数精鋭で穆柯寨へと乗り込んでいきます。また、穆桂英の方でも、義理の父が乗り込んできたとは知らず、突然の侵入者を懲らしめようと出陣して行くのでした。



<焦贛と孟良>

第三章 轅門斬子 (えんもんざんし・軍門で子を斬る)

楊宗保が宋の陣営に帰ってきますが、楊延昭は勝手に穆桂英と結婚したことに怒り、軍規を乱した罪で斬首にすることに決めます。そこへ「降竜木」を持った穆桂英が現れて…

◆出演：張春祥、張桂琴、馬征宏、張冠玉、于躍、チャン・チンホイ
張烏梅、加藤光一郎、塚田拓也、茶谷力輝、高瀬育海、他

◆楽師：洪鋼、金虹、許佳、関潔苾、他

◆作・演出：張春祥

◆照明：斉藤茂男 (株)ウォーターグレイション

◆舞台監督：梅木俊治

◆字幕：殿原慶三

◆写真：木村武司

◆企画・制作：新潮劇院



■成城ホール

〒157-8501 東京都世田谷区成城 6-2-1
小田急線「成城学園前」駅 徒歩4分